

様式1(主な取組)

活動指標名	看護師国家試験合格率				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	98.70%	98.80%	100.00%	97.40%	98.59%	100%	98.6%	151,602	順調	国試問題の出題傾向を分析し、国試対策講座にて学生に解説するとともに、個別面談を行い、勉強の取組状況を把握して勉強の仕方や問題の考え方を指導した。希望する学生には、勉強するための教室を提供し、勉強に集中できる環境を整えるとともに、万全の体調で国試に臨めるよう常に声かけし、生活の仕方について助言した。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 国家試験対策講座を8月と1月に開催し、8月は、71人中の40人から60人程度の学生が参加した。1月は、自分のペースで勉強したいという学生が複数おり、20人から30人程度の参加であった。また、疑問点があると、教員の研究室に質問に来る学生も複数おり、教員も学生が納得するまで試験問題の解説をしている様子が見られた。このような学生のやる気と教員の熱心な指導が合格率に貢献した。
活動指標名					R元年度					
実績値										
活動指標名					R元年度					
実績値										

(2) これまでの改善案の反映状況

令和元年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> ・国試対策方法や対策開始時期について、反省を含めた現状を3年次に伝える報告会を開催する。 ・授業で国試問題を取り上げることを教員に推奨する。 ・早期に国試対策に着手させるため、4年次早期に国試不合格学生の振り返りを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国試対策に早めに取り組むよう学生に声をかけ、早い学生では4月からコツコツと試験問題に取り組んでいた。 ・授業で国試問題を取り上げる取り組みには、ばらつきがあった。 ・前年度に国家試験が不合格だった学生は、勉強の取組を始めたのが12月頃であり、取り組む時期としてはとても遅いと考えられた。この状況について、7月に4年生に伝え、遅くとも8月から国試勉強に取り組むよう伝えた。



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

—

○外部環境の変化

・看護師国家試験の出題傾向について、臨床に関するより実践的な問題の増加傾向が続いていたが、今年度の国家試験の内容は、疾患や病態に関する知識を前提として看護を問うような複雑な問題が出題されている一方で、看護技術に関する基本的な知識を問う問題も出題されており、幅広い知識が必要とされる内容であった。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・8月と1月に開催している国試対策講座の1月の講座は、参加した学生数が少なかったことから、学生のニーズに合致した講座ではなかったといえる。学生の要望をふまえ、講座のやり方を工夫する必要がある。

・複雑な問題だけでなく基本的な問題にも取り組み、幅広く知識を身につけるよう指導する必要がある。基本的な問題は、分かっていたら確実に正答できるような難易度の低い問題であることから、基本的な知識をおさえ、確実に答えられるようにする必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・1月の国試対策講座について、学生のニーズに合致した内容になるよう、工夫と改善をはかる。

・複雑な問題だけでなく基本的な問題にも取り組み、幅広く知識を身につけるとともに、基本的問題を確実に解けるよう勉強に取り組むことを指導する。

様式1(主な取組)

活動指標名	県民を対象とした出前講座、公開講座、離島講座等の実施				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	25	24	26	26	25	1.0%	200	大幅遅れ	<p>本学では、中学生への性教育出前講座やDV被害者支援講座、離島のケアシステム構築支援に係る研修等多岐にわたる講座を開催した。その他、県、市町村、看護協会等関係機関での人材育成や地域のがん対策推進計画検討会等保健医療福祉に関する計画策定に参画し、地域の健康づくりに貢献した。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>社会の多様化、超高齢社会の推進等により本学の地域貢献の取組もその多様化や高齢化が求められている。そのため、研修会や講座の開催、地域の保健医療福祉計画の策定への参画を毎年継続することが必要となる。しかしながら、その取組の効果について短期間で判明できるものではない。</p>
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 本学のイベントや講座開催時等、様々な機会を通じて県民の健康福祉への関心の動向把握に努める。 						<ul style="list-style-type: none"> 2月2日に博物館・美術館で行った『人生の達人のくらしぶり—老いることに心を弾ませて—』が230人の県民が参加し大盛況だった。健康福祉への地域貢献に繋がったと考えられる。 本学で定期的に県民向けの高齢者ケア研修会を行っているので健康に関する意識の向上に繋がっていると考えられる。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 本学は教職員が少なく、授業や研究等で多忙であり、出前講座等開催を増やすには時間的な制約がある。

○外部環境の変化

・ 県民の健康福祉への意識も様々であり、また意識の変化もあることからそのニーズを把握することが必要である。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ 県民のニーズや開催時期等を検討する事により、県民が求める公開講座を開催し、更なる健康意識の向上を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 県の広報媒体や本学のHPを活用し、講座等の周知を図り、県民の参加を増やしていく。
- ・ 講座等開催時にアンケートを実施し、県民ニーズの把握に努める。